

東日本大震災から何を学ぶか 「どうする日本」

東日本大震災がきっかけで考え方や生活に変化があったという人は多い。アクサ生命保険が20〜50代の生活者1万人を対象に行った実態調査によると、震災後「この国の行く末に不安を感じた」80・4%、「自分や家族の将来に不安を感じた」70・6%の回答があった。その一方で「自分のことは自分で守らなければならぬ」とは80・1%であった。東日本大震災から私たちは何を学べばいいのか。本誌に寄せられたコメント、報道から得た情報など、さまざまな視点から編集し「どうする日本」を考えてみたい。

無常

石巻に住む弟夫婦は津波に流され亡くなりました。今年の3月11日、朝は「去年の今頃は元気だった」、昼になると「去年のこの時間はまだ、何事もなく過ごしていたのだ」と思ってしまい、辛かったです。

仙台市 桂島妙子

運命

あいつは腹が痛いって休んだんです。それで代わりに俺が出たんですよ。寮で寝ていたあいつが死んで俺は生きている。なんか、分かんなくて。

宮城県 工場勤務

宗教

大学教授、政治家、東電などの社長って俺らと違って頭がいい人達なのだろうと思っていたら、バカなので驚いた。想定外だった。

青梅市 20歳男性



誰もいない町

いると思います。子供が心配です。原発をやめて欲しいです。

青梅市 3児の母



宮城県名取市関上 日和山 慰霊式

「子供の頃、この辺りに住んでいた。いつかまた訪ねてみたいと思っていたが、町ごと消えてしまった。」

原子力発電

地震や津波と違って原発被害は人間が欲で作ったその結果です。全ての苦しみは欲によって起こります。精神構造を変える必要があります。

天台宗ハワイ 荒 了寛

原発事故後の報道を見ているとマスコミが信用できなくなり、インターネットなどで、自分で情報を探そうになりました。海外の報道の方が真実を伝えて

海外からの支援

震災直後から日本のようすはリアルタイムに世界中に発信され、そして多くの国からの支援があった。貧しい小さな国々からも支援が届いたが、それまでの日本からの支援への恩返しなのだという。「絆（KIZUNA）」は今、世界共通語になった。



スーパーマーケットは商品の価格を下げ、自動販売機のオーナーは飲み物を無料を提供していた。略奪が全く起きていないことは驚きである。

イギリス・レスキュー隊員

今、何を考えるべきか

日本では地震は避けられない。だから、災害を最小にする備えが必要だと思う。そして、逃げる、生き延びるなどの本能を忘れないで欲しい。また、震災や津波の恐ろしさを語り継ぐことも大切だと思う。

ハワイ在住 笠間 明

災害地の復興は1年経っても手つかずのままです。地方の力だけではどうにもならないのに、政治が、国が助けてくれないからです。

宮城県 教員 女性

東日本大震災直後から仲間たちと募金活動、救援物資の輸送、被災地でボランティア活動をし、今年1月には福島の子供を青梅市に招待し、サッカー教室を開催した。被災地が必要とするものは時間と共に変わる。今必要なのは心のケアだと思う。

青梅市 小山 洋一

1年前と今の違うことは、被災者はもう政府を信頼していないことです。電力会社もメディアもこの国のエリートは何もしてくれないと思っている。被災地は置き去りにされたと感じている。

ドイツZDFテレビ記者ヨハネス・ハーノ 原発問題がなかったら、日本人の頑張りやと底力の世界が驚くような復興を遂げられるのにと思います。更なる事故で日本中逃げ場なし！なんてことにならないかと心配です。

青梅市 40歳女性

吉田 茂 元首相の訓示
(昭和32年2月 第1回 防衛大学卒業式)
「君達は自衛隊在職中、決して国民から感謝されたり歓迎されることなく自衛隊を終わるかもしれない。御苦労だと思ふ。しかし、自衛隊が国民から歓迎されちやよはされる事態とは外国から攻撃されて国家存亡の時とか、災害派遣の時とか国民が困窮し国家が混乱に直面している時だけなのだ。言葉を換えれば、君達が日陰者である時のほうが国民や日本は幸せなのだ。どうか、耐えてもらいたい」



海外で公開されている福島原発写真
日本で報道されているのとは違って、非常にクリアだ。

海外から称賛された国民性

混乱の中での秩序と礼節、悲劇に直面しての冷静さと自己犠牲、物静かな勇敢さ、これらはまるで日本人の国民性に織込まれているようだ。

ニューヨーク・タイムズ



有限会社 つぶぎ 総合内装
内装工事一式
クロス・襖・カーテン
〒190-1224 東京都西多摩郡瑞穂町南平2丁目38番地15
042-570-0451

純米酒・本格焼酎・国産ワイン
今こそNIPPON酒パワー
武藤治作酒店
青梅市木野下1-104
0428-31-4886



企業のために、
経営者とともに。

多摩支社 西多摩営業所/青梅市河辺町10-6-1 (トミタウ-2F) TEL 0428-23-4428
DJIDO 大同生命



避難所の仙台市若林小で

どうする私たち

東日本大震災が、後に日本の転換期であると言われるだろうことは間違いない。真の復興は元に戻すのではなく、新しい日本の創造であるべきではないか。価値観の革新は、多くの痛みをともなう、国も国民も覚悟が必要だ。どうする日本は「どうする私たち」にかかっている。世界は固唾をのんで日本の復興を見守っている。